

福祉協力校だより合併号



平成28年度

飛騨市健康と福祉のつどい標語優秀作品

点字 手話 言葉を伝える 思いやり

古川西小学校四年 森谷 桃花

じじばばの 笑顔がごほうび 今日も行く

古川小学校四年 山田 里渚

あいさつで 笑顔あふれる ふるさとに

河合小学校六年 西川 恵那

「なにげない 道ばたの花にも名前があるんだよ。」

おばあちゃんとの散歩は 発見がいっぱい!

宮川小学校六年 田中 涼花

自分から 勇気を出そう 声をかけよう 助けよう

神岡小学校五年 仲表 陸斗

あいさつの 花を咲かそう ハイタッチ

山之村小学校四年 沖田 翔哉

Contents

中学生による福祉意見発表全文／福祉標語	P 1～6
第11回ぞうきんコンテスト	P 7
飛騨市支えあいヘルパー養成講座	P 8
サロン交流会	P 9
トピックス／クイズコーナー	P 10
各種相談事業／寄付・御礼	P 11
チェアスキーボランティア講座	P 12

平成28年度
福祉意見発表
応募優秀作品

11月13日(日)に古川町総合会館において、飛騨市と共催で「飛騨市健康と福祉のつどい」を開催しました。会場では、市内中学生の意見発表や市内小学生の福祉標語の掲示を行い、市民の皆さんに健康の喜びと、地域福祉の重要性について、関心を深めていただくことができました。

中学生の意見発表では、飛騨市の将来を担う若者の学校や家庭、将来についての考えに、来場された皆さまは真剣に耳を傾けてみえました。

講演会では、土井善晴さんに、「食べる力は生きる力～家族の食事の考え方と作り方～」と題してお話していただきました。食事を通じて家族の健康を守ることはもちろん、愛情を込めた料理で「生きる力」を育むことが大切であると話されました。



「思いやりのある行動」とは、どんな行動だろう。私は、改めて考えました。つい先日のことを思い出したのです。
私は、バスに乗っていました。するとそこに、おばあちゃんが乗ってきました。バスの中にはたくさんの方がいて、おばあちゃんのお座席はありませんでした。だから、おばあちゃんは、つり革につ

思いやりのある行動

古川中学校三年 玉腰 愛子

かまっていました。私は、席をかわってあげようと思い動こうとしましたが、なかなか動くことができませんでした。動く勇気がなかったからです。私が早く席をゆずらなかつたので、男の人がおばあちゃんに席をゆずっていました。おばあちゃんはとても嬉しそうに、「ありがとう」といっていました。

私は、その姿を見て、もつと早く自分から席をゆずってあげていれば、おばあちゃんの役に立てたのにとすごく後悔しました。

このような思いから、私は今の自分に何が足りていないのか、考えました。その結果、今の自分には、勇気が足りないということが分かりました。おばあちゃんに席をゆずろうと思った時も、周りの目を気にしてしまい動けなかつたのです。このようなことは、日常生活の中でもありました。それは、

自分からクラスの仲間に呼びかけることです。なかなか自分からは、呼びかけることができない時がありました。心の中では思っていますが、そのことを言葉に出すことができないということが、たくさんあったので、もうそんなことがないように、思っていることは、しっかりと言葉で伝えていけるようにしていきたいです。

また、私は、普段どのような場面でも思いやりのある行動をすれば良いのか考えました。考えた結果、私がやりたいと思ったことは、当たり前のことですが、自分から挨拶するということです。毎朝、学校に行く途中で、すれ違う時に挨拶をすると、「行ってらっしゃい、頑張つてね。」と言ってくださいる方がいらつっしゃいます。今日も一日頑張ろうと思ひ、とても元気がでます。「おはようございます」という言葉から、どんな会話が広がっていきます。とても温かい気持ちになります。だから、私は、挨拶をこれからも続けていきたいです。

私は、今生きているすべての人

が思いやりの心を持っていれば、争いなどもなくなると思っています。

でも、そう簡単には争いはなくなりません。それは、人を敬う心がなからだと思えます。人を敬うことができない人になってしまわないようにするために、相手をおいやる心を持ち、日々生活していきたいです。

私はこの作文を、誰かの役に立ちたいという思いから、書こうと思いましたが、誰か困っている人がいたら、自分から声をかけて助けたいです。

私は、まず身近なお母さんから助けられるようにしていきたいです。いつも朝早く起きて、家族の弁当を作ったり、洗濯物を干したりと、やる事がたくさんあって大変だと思っております。私は今まで、自分の使ったタオルなど洗濯にだして普通に返ってくるのはあたりまえだと思っていました。でも、洗濯物を干したり、取りこんだりするのを手伝ったら、量も多くてすごく大変でした。お母さんは、いつもこんな大変なことをやっているん

だとすごく感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私は、あまり家の手伝いをしていなかったのですが、これからは、もっと自分からやれるようにしていきたいです。助けていかなければいけない



私の福祉

古川中学校三年 山田 莉来

私の中で「福祉」というと、高齢者の方や障がい者の方など、みんなが平等に幸せに生きることのできる社会というイメージでした。でも、テレビのニュースを見ていたときに、そのイメージをくつがえす事件がありました。それは、障がい者施設の元従業員の方が、以前勤めていた施設の障がい者を襲ったという事件です。

犯人の人は、障がい者の方がいることで、その家族の方や周りの人が大変な思いをし、障がい者はいらただけで迷惑という考えをもっていました。でも私は、そうは思いません。

人は、身近にいるということを改めて知ることができました。

思いやりのある行動とは、誰か困っている人がいたら助けたいという自分の思いから広がっていくということが分かりました。

そう思ったきっかけは、障がい者の方について調べていたときに、障がいをもついても楽しんで生きている女性を知ったことです。その女性は、生まれたときから両足がなく、右手の指が三本しかありません。私はそのことを初めて知ったとき、普通の生活をするのも大変ですし、好きなこともできなくなつて、とても不便だろうと思いました。もし私が同じ立場だったら、きつと、「どうせ私には無理だ……。」というんなことを挑戦せずにあきらめていただろうと思えます。それと同時に、私に手があつて足があつて、目が見えてということ

は、決して当たり前前のことではないんだということに気がきました。その女性は障がいがあつても、それを受け入れて、足がないことをものともせず、普通の人と同じように生活したり、スポーツやモデルをすること、周りの人に笑顔や勇気を与えたりしていました。障がいがあつたとしても、自分のやりたいうことをやりたり表現したりすること、勇気を与えることが、自分の仕事だと言ってみえました。それを知つて、私も勇気をもらいました。とても努力家な人と聞いて、私も負けていけない、もつとがんば



は、決して当たり前前のことではないんだということに気がきました。その女性は障がいがあつても、それを受け入れて、足がないことをものともせず、普通の人と同じように生活したり、スポーツやモデルをすること、周りの人に笑顔や勇気を与えたりしていました。障がいがあつたとしても、自分のやりたいうことをやりたり表現したりすること、勇気を与えることが、自分の仕事だと言ってみえました。それを知つて、私も勇気をもらいました。とても努力家な人と聞いて、私も負けていけない、もつとがんば

らないとも思えました。だから、まずは私が普段やっている勉強や委員会活動などを今以上に努力しようと思いました。私はこの女性のおかげで、そういう気持ちになりましたし、この女性のことを知ることができて良かったと思います。だから、私は、障がい者の方がいることが迷惑だとは思わないです。

また、私は、みんなが笑顔で過ごすためには、他の人のことを考えて行動することが大切だと考えています。どんな人にも思いやりをもつて接することが、「福祉」だと思いますし、みんなが幸せに生きることにつながると思います。そして今、私が普通に当たり前の生活をしていることは当たり前ではないんだと思います。だから、私が生きていることや当たり前の生活を送れることに感謝して精一杯生きようと思います。

私には遠くに住んでいるおばあちゃんがあります。おばあちゃんとは年に二、三回しか会うことができませんが、おばあちゃんには病気で動くことが辛いと思うのに、会いに行くと

いつもおいしいご飯を作ってくれます。私たちの分の洗濯もしてくれます。このように私たちのためにたくさん動いてくれます。私はそれがとても嬉しいです。おばあちゃんには、私たちのことを思っていてくれてるんだなあと思ったら、心があたたかくなりました。だから、私もおばあちゃんのように、もっと人を思いやる気持ちを大切にして行動したいと思いました。

私が世界を幸せにするなどとい



言葉でつながる

神岡中学校二年 清水 咲綺

「おはよう」「こんにちは」「あのね、昨日ね…」「今日の調子はどう?」私たちは普段何気なく使っている言葉でつながり、支え合いつながり生きています。

言葉には、人を支えたり元気づけたりする力があります。誰でも一度は、誰かの言葉のおかげでがんばれたと思ったり、こういう言

うことは、簡単にできることではありません。でも、私のまわりの幸せをつくることはできると思います。相手のことを思って行動したり、トイレのスリッパをそろえたり、落ちているごみを拾ったりするなど、そういう小さなことにも気遣うことができる人間になりたいです。私ができるのは小さなことですが、私の周りから誰もが幸せに生きることのできる社会をつくっていききたいと思います。

葉をかけてくれてうれしかったと言われたりしたことがあると思います。私自身も辛いときに友だちがかけてくれた言葉でがんばれたり、心の支えになったりすることが何度もありました。普段何気なく使っている言葉だけれど、もっと大切にしていかなければならぬと私はいつも思っています。

しかし、今はそんな風に言う私ですが、今まで言葉をかけることをそんなに大切にしてきたわけはありません。

私には祖父母がいました。小さい頃は私たち姉弟とよく遊んでくれたり、ご飯を作ってくれて一緒に食べたり、いつも私たちのことを気遣って優しく接してくれる祖父母でした。その二人が病気で入院することになったとき私は毎日のように会いに行きました。でも、私は祖父母に何も声をかけることができませんでした。話すのが怖いと思ってしまったのです。いつも元気だった祖父母が無機質な病院のベッドで寝ている姿が、いつもと違う人を見ているようで怖かったのかもしれない。普通に話せば良いのになんかどっかで気を遣う自分がいたり、話して良いのかなという不安もありました。さらに、病気で体力が落ち、やっとで着替えをしている祖父母を見て「大変そうだなあ。」と思っていたのに、私は、声をかけることも、手を貸すこともできませんでした。もし、



自分が声をかけていたり、学校の様子を話したりして、いつものようにしていれば病気は治らなくても笑顔で楽しい時間をもっとたくさん過ごしていたかもしれないし、辛いときや痛いとき、大変な思いをしているときも、少しは励みになつていたかもしれません。祖母が亡くなった今、私は声をかけられなかったことを本当に後悔しています。

と考えている私たちのような生徒に一日看護師の仕事を経験させてもらえるというものです。

その時市民病院の看護師の方々はいいつも患者さんに「元気ですか」「今日は天気良いですね」と声をかけてくれました。体の動かないお年寄りや話すことができない方々にも声をかけてくれました。声をかけられた患者さんはふっと力が抜けたり、笑顔になったりして元気を出されることがすごく伝わってきました。毎日仕事をしていれば当たり前のことなのかもしれないけれど、私は素直に「かっこいい」と思いました。私にはできなかつた声をかけること。どんなに忙しいときでも、患者さんに頼まれたことがあつたら、すぐにやつて、安心できる環境をいつも作ることに。どんなときも相手が一番に思い声をかけることに心がけてみえる姿があつたからです。本当にすごいと思えました。

これから、こんな「かっこいい」と思う姿に少しでも近づけるように、まずは家族や自分のまわ

りの人に声をかけていきたいと素直に思いました。気持ちを言葉にして伝えるのは相手を大事に思っているからこそできることで、自分本位では絶対にできないことだと思えます。

いま、神中では、地域へ元気を届けようとMSJリーダーズの人を中心にあいさつ運動を行ったり、体育祭・合唱コンクール・吹奏楽部の発表などに地域の方々を招待

したり、聞いていただいたりしています。地域の方々に応援してもらえようれしくなり、よけいに力が発揮できます。そんなときいつも私は地域の方々に支えられているなあと感じます。私たちの力なんて本当に微力ですが、地域に元気を届けられるよう、市民病院の看護師さん達のようにどんな人にも平等に相手が元気になる声かけのできる人になりたいです。



動物と共に生きる

山之村中学校二年 石橋 恵

十万。

皆さん、この数字が何を表しているのかわかりますか？これは、一年間に保健所で殺されている犬や猫の数です。計算すると、一日約二百七十頭の命が奪われていることになりました。しかも、そのほとんどが「犬の子どもが増えてしまつて飼えない」、「吠えてうるさい」、「いろいろなものを噛んでしまつて困

る。」といったような人間の都合で捨てられ、殺されていつているのです。

私の家では、前の飼い主に虐待され保護されていた犬と暮らしています。この犬の名前はジョンと言います。ジョンは以前、蹴られたり、殴られたり、散歩もさせてもらえず、家の中に閉じ込められたりしていたそうです。



初めて私の家に来たとき、ジョンは私たちを怖がり、誰かが近くにいるとえさを食べず、ずっと犬小屋の中に閉じこもっていました。ずっと家の中で飼われていたジョンは、やつのことで小屋から出して散歩をしても、すぐに足の裏が血だらけになってしまいました。今では、私たち家族が近づくと、小屋から喜んで飛び出してくるようになりました。

でも、完全に心の傷がいえているわけではありません。まだ、知らない人が来るとおびえてしまい、小屋

の中に入ってしまうです。だから、私はジョンと接するときに、なでる時は下からなでたり、毎日必ず「ジョンちゃん、学校行ってくるね。」と一緒に散歩いこう。」と声をかけたりするようにしています。下からなでるのは、人に殴られたことがあるジョンが怖がらないように、いつも声をかけるのは、私達はジョンのことが大好きだと伝わるようにと思うからです。私たちがジョンと暮らし始めて一年半が経ちます。まだ人を怖がり、心の傷がいえず、他の犬よりも楽しめていないように思います。

犬だけではありません。他にも人間の都合によって飼えなくなり、心や体に傷を負ってしまう動物がたくさんいます。命を奪われてしまうこともあるのです。私はこのことを知った時に、「動物もみんなと同じように命があるのに」、「人の都合で増やされたり、殺されたりするなんて」と、複雑な気持ちになりました。

私の家では、動物と暮らそうとする時、必ず「家族会議」を開きま

す。それは、「これから一人の家族を増やそうと思っているけど、最後まで責任をもって育てられるか」ということを話し合うためです。私が小さい頃は、よくわからないまま話をしていました。しかし、最近になり、今の動物たちの実情を知り、なぜこんな会議を開いていたのかがよくやくわかってきました。

母はいつも「動物は言葉が話せない代わりに犬だったらしつぽや行動で、にわとりだったら鳴き声で気持ちを表そうとしているんだよ。やぎや、うさぎ、インコも同じだよ。だから、しつかり見て「うるさいなあ。」で終わらないで何を伝えようとしているのか相手のことを考えてあげて。」と言います。

私達の家では動物もみんな「家族」という考え方で暮らしています。私は、今家にいるたくさん動物の命を大切にし、これからも一緒に暮らしていきたいです。

今、この瞬間にも、世界のどこかでたくさん動物の命が奪われています。私の力では全ての動物を救うことはできません。皆さんの中

で、動物と一緒に暮らしてみえる方は、家に帰って話しかけてみて下さい。いっぱい吠えているとき、物を噛んで困るときは、そのわけを考えてあげて下さい。決して、野山に放したり、傷つけたりしないでください。その家で一緒に暮らすと決めた時点で、それは「ペット」ではなく「家族」です。

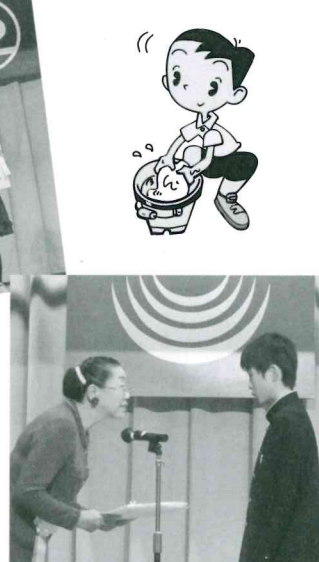
お互いのことを大切に思い合えば、きつと動物ともわかり合えると思います。ペットを飼ってあげるという軽い気持ちではなく、「家族が増える」、「大切な命を預かるのだ」ということをしっかりと考え、動物を育てて欲しいと思います。

人間と動物とがうまく付き合っていく社会をつくらしていきたいと思えます。



第11回 子どもぞうきんコンテスト

11月13日(日)、古川町総合会館において「第11回子どもぞうきんコンテスト」の表彰式が行われました。このコンテストは「もったいない」という気持ちと手仕事の大切さを子どもたちに感じてほしいという思いから開催されており、小中高校生の児童・生徒が、アイデアと使いやすさを考えてぞうきんを作成しました。今年、飛騨市・高山市と全国の子も達485名に参加してもらいました。応募いただいたぞうきんは、飛騨市長のメッセージとともに、竹本実行委員長自ら被災地の熊本に届けられました。なお、各賞を受賞された皆さまは下記のとおりです。



飛騨市長賞
飛騨市教育長賞
飛騨市教育長賞
飛騨市社会福祉協議会長賞
飛騨市文化協会会長賞

圓山 蓮奈
畠中 莉穂
山下 沙世
蒔田 彩音
杉田 綾乃

■優 秀 賞

小学生低学年の部
小学生高学年の部
中学生の部
高校生の部

倉畑 遥
小林明日香
中井 彩未
岩垣江里子
山崎 剛
橋本 来未
日下部 真衣
武内 梨乃

■特 別 賞

市受託事業

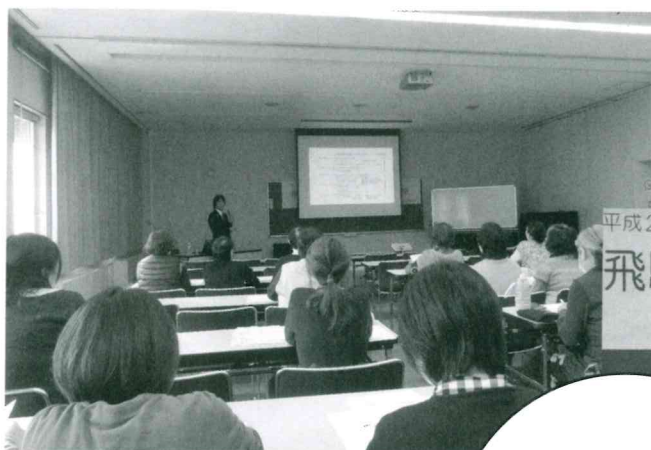
飛騨市支えあいヘルパー養成講座

「飛騨市支えあいヘルパー養成講座」とは、ゴミ出しやお掃除、誰か手伝ってくれたら助かるのに・・・といった、高齢者の方の生活支援（身体介護除く）を実施する人々を養成する研修会です。

11月22日(火)に神岡町公民館にて飛騨市支えあいヘルパー養成講座を開催し、計29名の方の参加をいただきました。

午前中は介護保険制度の現状と今後についてや、高齢者福祉制度、高齢者とのコミュニケーション方法などを静聴し、午後からは講師に栗木 剛さんをお招きし「自分にできる……小さな手助け」についてお話しいただきました。

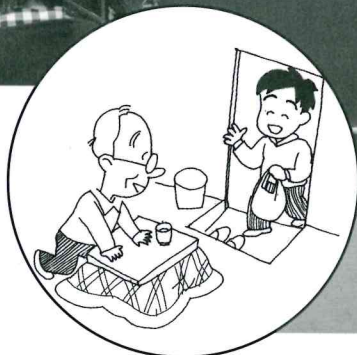
参加者の方には別の日に、福祉施設へ現場実習を行っていた後、「修了書」をお渡しします。飛騨市支えあいヘルパーとして実際に活躍していただけることを願っています。



平成28年度

飛騨市支えあいヘルパー養成講座

主催 飛騨市社会福祉協議会



ふれあいサロン交流会

11月29日(火)にサロン活動している方たちが集い、サロン活動の意義や魅力を共有化し、さらなる活動の活性化を図るため、「サロン交流会」を開催し、約120名の方が参加されました。

講師には、NPO法人生涯学習サポート兵庫榎本英樹氏をお招きし、サロンでできる手軽な楽しいレクレーションをたくさん教えていただき、笑いの絶えない時間を過ごしました。

参加された方からは、「あっという間に時間が過ぎてしまった」「今度のサロンでやってみよう」と話され、今後のサロン活動に活かしていただける内容となりました。

また、会場後方に、袈裟丸のなごみ会の手作り作品とコミュニケーション麻雀を展示し参加者に見ていただきました。



ふれあいサロンのメリット

1. 楽しさ 生きがい
社会参加
2. 仲間づくり 人と人
との絆の広がり
3. 閉じこもり予防
4. メリハリのある生活
適度なこころの刺激



5. 日常生活の情報交流の場
6. サロン保険の加入により、安心して活動をして頂けます
7. 社会福祉協議会より活動費の助成があります



防火点検を実施しました!

古川地区では、11月10日(木)に神岡地区では、11月22日(火)に、関係機関の協力のもと、ひとり暮らし及び高齢者世帯の防火点検を実施しました。

キッチンや暖房器具等の火の元や電気配線、火災報知器・消火器の設置状況等を点検し、アドバイス等行いました。

寒い時期を迎え、暖房器具等を多く使う季節になります。火の元には十分気をつけてください。



親子お楽しみ会

10月29日(土)に市内のひとり親世帯を対象に親子お楽しみ会を開催しました。これは毎年市から受託をして開催されるものです。今年度は28組の親子が参加されラグーナテンボスへ行ってきました。

当日は天候にも恵まれ、遊園地でアトラクションを楽しんだり、買い物を楽しんだり、みなさん楽しく過ごしてみえました。

男性講座「男塾」を開催しました!!

飛騨市であいサポートセンター
11月25日(金)に飛騨市であい・サポートセンターに登録されている男性の講座を開催しました。

講師には、飛騨市であいサポートセンターを利用してご結婚に至った方にお越しいただき、結婚までのなれそめやサポートセンターから受けた支援などについて語っていただきました。

参加者からも、今不安になっていることや、相手とのメールのやり取りの方法など、活発に質問ができました。講師からは、「自分を好きになること」「周りの幸せを願うこと」で自分も幸せに近づいていくことなど話されました。これからの出会いが見つかるといいですね。

今月のクイズコーナー

正解者の中から抽選で、(有)麺の清水屋の中華そばセットを5名様にプレゼントします。どうぞ応募下さい。



*応募締め切り
1月16日(月)【消印有効】

※ハガキに住所・氏名・答えを書いて下記へお送りください

〒509-4221

飛騨市古川町若宮二丁目1番66号
飛騨市社会福祉協議会 クイズ係まで

※景品発送のため、住所・氏名は正確にお書きください。
(個人情報厳重に管理します。)なお、当選者は次回の福祉ひだでお名前のみ掲載させていただきます。

<10月号 クイズ当選者>

- ◎前坂 典文様
- ◎吉真 瑞稀様
- ◎水上 沙弥香様
- ◎洞 芳光様



身体に障がいがある方が座ってすべることができるスキーは何でしょう?

ヒント
裏表紙をよ〜く見てね!



各種相談事業等の予定

～秘密は必ず守ります～

秘密厳守!

相談は無料!



弁護士による 無料法律相談 13:30～16:00

法律問題でお悩みの方を対象に、弁護士による無料法律相談を行っています。
1日6名の方まで相談を受け付けております。
※事前に電話予約が必要となります。

1月19日(木) ハートピア古川
2月16日(木) 神岡町ふれあいセンター

であいサポートセンター 「結婚相談」

■電話で随時受付を行っています
TEL080-2666-4053

心配ごと相談

■古川会場(ハートピア古川)

1月10日(火) 10:00～12:00
25日(水) 13:30～15:30
2月10日(金) 10:00～12:00
25日(土) 13:30～15:30

■神岡会場(神岡町公民館)

1月13日(金) 18:00～20:00
22日(日) 10:00～12:00
2月10日(金) 18:00～20:00
26日(日) 10:00～12:00

■宮川会場(宮川振興事務所)

1月20日(金) 13:00～15:00

■河合会場(河合町公民館)

2月8日(水) 19:00～21:00



寄付御礼

飛騨市社会福祉協議会にご寄付いただきありがとうございます。頂戴した尊い浄財は、地域福祉の為に有効に活用させていただきます。

(平成28年9月16日～11月30日受付分)

飛騨古川盆踊り同好会 様(古川町) 五〇,〇〇〇円
匿名 様(宮川町) 一〇〇,〇〇〇円
カラオケ喫茶 ヒサゴ 様(古川町) 四二,二九〇円
ウイスキーポップ 様(古川町) 一三,〇〇〇円
特別会費にご協力いただき誠にありがとうございます。
ました。(平成28年10月30日以降納入分、敬称略)
匿名 五,〇〇〇円
ナウエ(株)(追加納入) 一〇,〇〇〇円

神岡地区給食サービス 配達ボランティア募集

神岡地区給食サービスでは、高齢者等のお宅へ安否確認を兼ねて毎週金曜日にお昼のお弁当を配達しています。
地域の高齢者のお宅へお弁当を配達してくださる方を募集しています。

◆配達地域は船津、江馬、殿周辺の地域になります。

◆1回1時間程度、10件程度までの件数でお弁当を配達していただきます。

◆毎週でなくても結構です。

(ローテーションを組んで、月に1～2回の配達でも可能です。)

チェアスキーボランティア講座

★障がいがある方にもスキーを楽しんでいただくために、そのお手伝いをしてくださるボランティアを募集し、チェアスキーボランティア講座を開催いたします。

日時

平成29年 **1月14日** (土)

AM.9:00~12:00



会場

飛騨かわいスキー場

参加費は無料ですが、スキーウェア、スキー等は各自でご準備ください。リフト代は当協議会で負担します。当日は会場で集合・解散となります。定員は10名程度を予定していますが、申し込み多数の場合は、時間を調整させていただく場合もあります。受講者にはチェアスキーボランティアとして登録をお願いいたします。

※1月10日までに飛騨市社会福祉協議会へお申し込みください。

『チェアスキー』ってなあに？

身体に障がいがある方が座ってすべることができるスキーです。一本の板（モノスキー）の上にイスがついているものと、二本の板（バイスキー）の上にイスがついているものがあります。通常はアウトリガーという小さな板の付いたストックを使用して滑走を楽しみます。

『チェアスキーボランティア』ってなあに？

障がいがある方等が自分で操作できない場合に、補助バーが付いているチェアスキーを操作して一緒に滑走行したり、リフトの乗降をお手伝いしていただきます。操作方法がわからない人に教えていただくこともあります。



モノスキーです。
板が一本で、後ろで支えて補助します。



バイスキーです。
板が二本あり、後ろから補助します。

関連事業についての
お問い合わせは

飛騨市社会福祉協議会

TEL0577-73-3214 FAX0577-73-0711

飛騨市社協 検索

〒509-4221 飛騨市古川町若宮二丁目1番66号

■URL <http://www.hidasi-syakyo.net/> E-mail : info@hidasi-syakyo.net

*この機関紙は、歳末たすけあい募金の配分により発行しています。



しゅ ひだ守ちゃん